

裏妙義 ～鍵沢編～[編集する](#)

2010 年 12 月 10 日 02:42 [友人の友人まで公開](#)

10 view



何かの夢を見ていたはずで、ぼんやりしながら目を覚ますと、そこは決して見てはいけない現実の世界だった...

6:27

わお。

(⇒一瞬にして、身体中の全細胞が熱くなる...)

あちゃー、やってもうた...。

久しぶりの山、本当に、本当に(!!)楽しみにしていたのに...。

びくびくしながら、tessy に電話を入れると、「おはようございます!!」と爽やかな第一声が。おそらく、おれは前科一犯なので、tessy は慣れたものだったのかもしれない。

(→前科一犯の出来事はこちら:

http://mixi.jp/view_diary.pl?id=939699841&owner_id=6743162)

もともと、5:13 上野発の電車に乗ることを約束していたので、結局 tessy を上野駅で 2 時間半も(!)待たせてしまったのだが、いやな顔一つせずに来てくれ、本当に感謝です!! 🙏

そして結局、7:38 に上野を出発したものの、高崎での乗り継ぎが悪く、1 時間弱カフェで時間をつぶし、横川駅に到着したのが 11 時。。。🌀

本来は、長年温めていた計画「裏妙義縦走」を実行するはずだったけど、これはまたまた次回におあずけということで…。💧💧

鍵沢ルートから登り始め、国民宿舎へ抜けるルートに変更。ここは、学生時代にロンや宋一孝達と歩いたルートでもあり、当時の記憶が鮮明に蘇ってくる。ほとんど変わってないね。

裏妙義は、標高 1057m の低山だけど、山歩きのいろんな要素(樹林帯、沢沿い、急登、鎖場、岩場、景色サイコー、等)が、コンパクトに詰まった山でした。



信越本線の車窓から眺めた、裏妙義全貌。露骨な山だね。
(ドラゴンボールで、悟空たちが修行してそうな山並み。)

そして、歩き始めると、キツネ発見!!



天気もよく、



落ち葉のじゅうたんは、サクサク感が気持ちよい♪



こんなに足が深く埋もれてしまう所もあるくらい。

今回歩いたのが鍵沢コースと言っても、
常に沢沿いを歩くわけではなかったが、
それでも忘れた頃に登場するのが水場。



小規模な池や、ナメ滝も何度も見かけた。
裏妙義の水たちが、こうして自分たちの存在をアピールしているのかも!?



第二不動滝。ここがこのルートの中腹。

登りの後半は長い鎖場の連続。



(tessy は極力鎖を握らずに前進!!)



このラストは鎖場を登り切れば...



山頂、丁須ノ頭!👍

山頂では、遅く登り始めたので、ほんの少々休憩するつもりだったけど、

結局 1 時間はのんびりと滞在してしまいました😅

お汁粉も食べて、おなかいっぱい😋



浅間山。



横川の街並み。



表妙義。いつかはここも縦走してみたいね!! (要登はん技術!!)

こんなに天気のいい山頂、名残惜しいけど下山😓



一部、やや急斜面。

だいぶ下りてきてからは、



落ち葉とたわむれる、の図。



最後の最後で出ました!! 終わりの紅葉だけど、初もみじ🌟
(→今年はほとんど紅葉を見ないまま終わりそうだったのです。)

国民宿舎で温泉♨️に入り、ここから横川駅までは徒歩 1 時間 5 分。街頭一つない、真っ暗なアスファルトの夜道だったけど、星空がきれいだった🌌

11:05 横川駅

(→ここからちょっとだけ道に迷う。)

11:40 登山口

12:30 第二不動滝

13:40-14:40 丁須の頭

15:45 木戸

16:25 国民宿舎 (温泉)

17:25 国民宿舎

18:32 横川駅

横川駅で楽しみにしていたのが、峠の釜めし。tessy が駅前にお店があるのを目ざとく見つけてくれていた

ものの、着いたらびっくり。なんと 18:00 で閉店…。📍

でも、駅改札の横に、あるではありませんか。立ち食いそばと一緒に販売されていた、横川の釜めし!!



グルメの旅も、バンザイ🍷🍷

【おまけ】

1999 年 12 月の裏妙義山行記録が出てきたので、以下、その一部を引用📖

～～引用はじまり～～

冬だー。北風も身にしみるー。しかし、落ち葉の絨毯が妙に暖かさを演出してくれていたようであった。実際はもちろん冷え切っている落ち葉たちであるが(特に地面には霜柱も立っていた)、落ち葉の上を踏みしめる音は、一人一人の「サクッ、サクッ」が4人で溶け合って、「サラサラサラサラ」。小動物の顔がひょっこり出てきそうな、暖かい響きだった。露骨な山の暖かみ、とでも言えばいいのかな。

丁須ノ頭から眺めた風景もまた、露骨であった。茶色がかった緑と、灰色がかった茶色の組み合わせ、そんな妙義の山並み、下界にはどこまでも広がる、ちょっとくすんだ街並み、沈んだ青緑の水面を覗かせる妙義湖、真っ白な雪をかぶった浅間山、青空に浮かぶすじ雲。それら全てには、厳しい冬のせいなのか、無駄な色が一切なかったような気がする。質素な色使い。しかしまた、優しさを感じさせる色使い。山はいつでもそうだったけ？

～～引用おわり～～

今回は、もともと前回と同じルートを歩く予定はなかったので、全く意識してなかったけど、帰宅後にこれを読んで、あの時と一緒にだったんだな、と実感😊

山は姿を変えずに、待っててくれるんだねえ✨